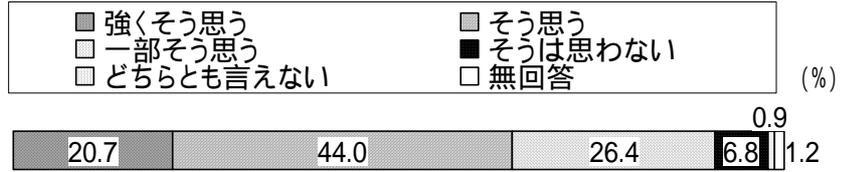


## A. 多発する不祥事への所感

1. 長年続いてきた企業慣行が、社会の常識とずれてきた。



2. デフレによる経済低迷と業績悪化が、不祥事を誘発している。



3. トップ主導やトップの意向を慮った不祥事が増えている。



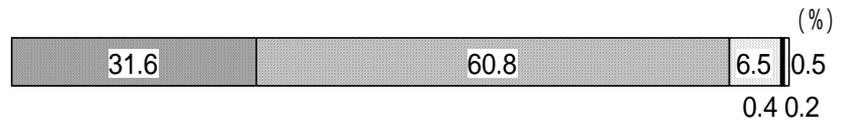
4. 企業内あるいは特定組織内で処理されていたものも、内部告発で顕在化している。



5. トップが関与しない不祥事で、トップが引責辞任するのは疑問だ。



6. 十分な内部統制・コンプライアンス体制を構築していないトップの責任は重大だ。



7. 部下を信用する性善説経営ではなく、今や性悪説で経営に当るべきだ。



8. 意図が「会社のため、組織のため」である場合、厳罰に処しにくい。



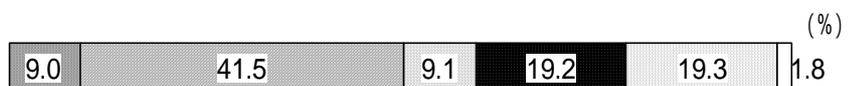
9. 私利私欲・自己保身のための不祥事は、まだ日本では少ない。



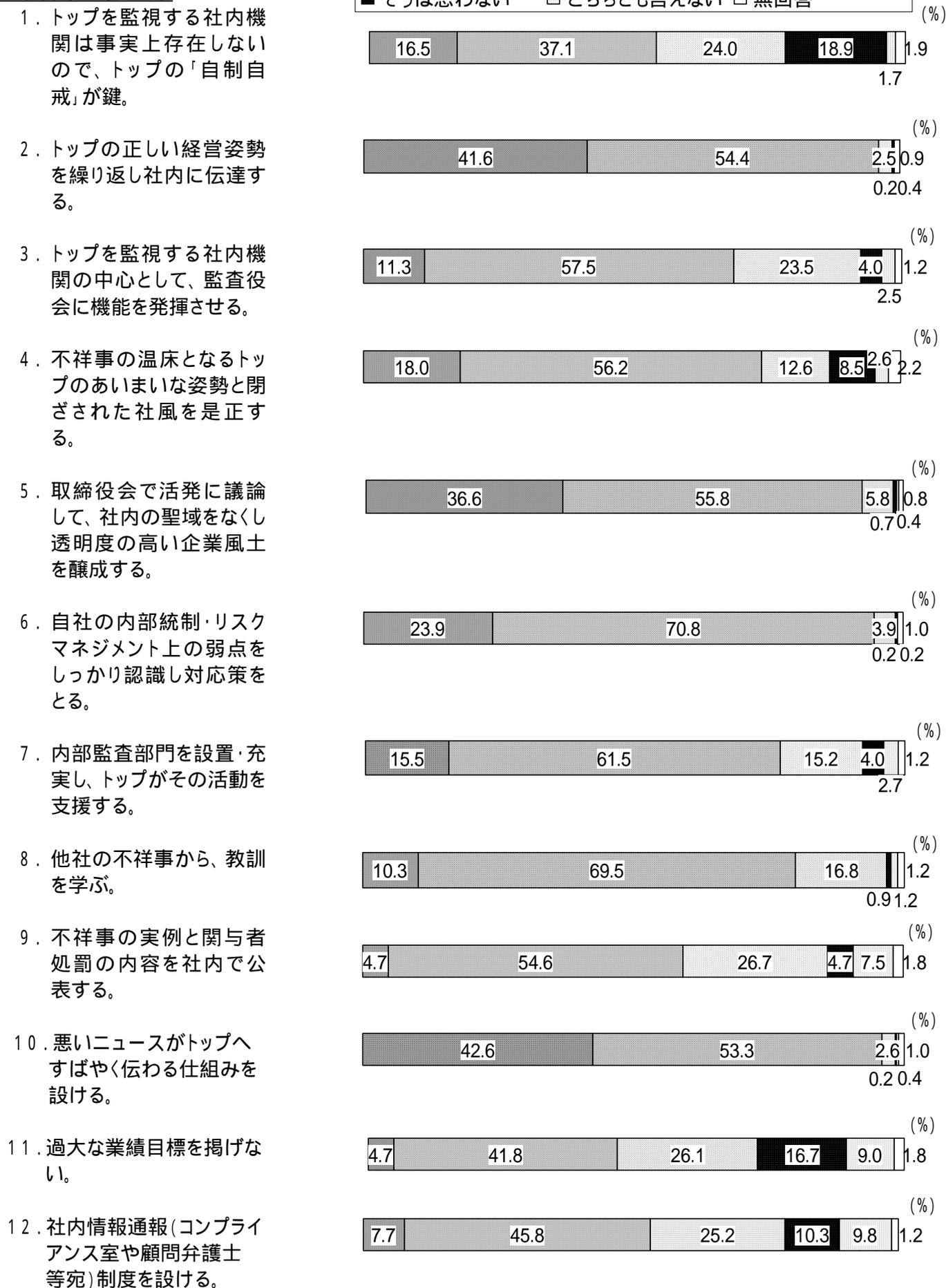
10. 不祥事が発生したら、社長自らが先頭に立って説明責任を果たすべきだ。



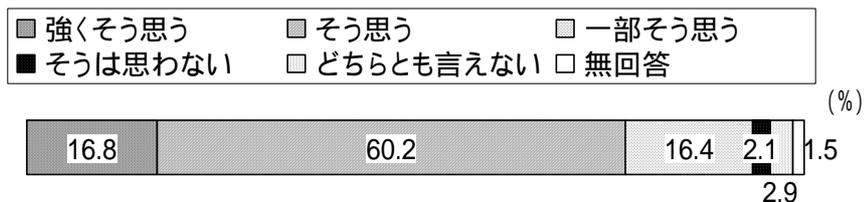
11. 自社では、公表されているような不祥事はまず起こり得ない。



## B. 不祥事の防止策



13. 社員教育に時間と費用をかけて、粘り強く実行する。

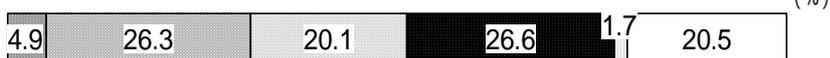


### C. 自社で心配している不祥事の種類

1. 製・商品の品質・安全性



2. 環境汚染



3. 消費者対応



4. 業界関係法違反



5. 談合



6. 贈収賄



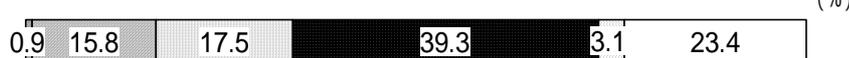
7. 権限外投機取引



8. 不正経理



9. 開示義務違反



10. 社員の不祥事



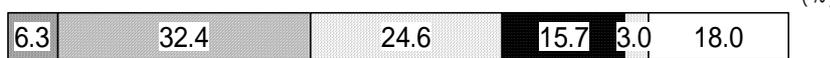
11. インサイダー取引



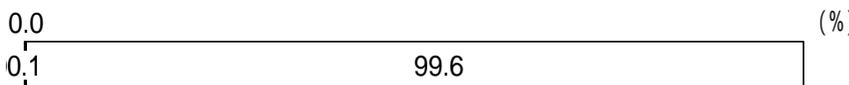
12. 情報漏洩



13. 情報システムトラブル



14. その他

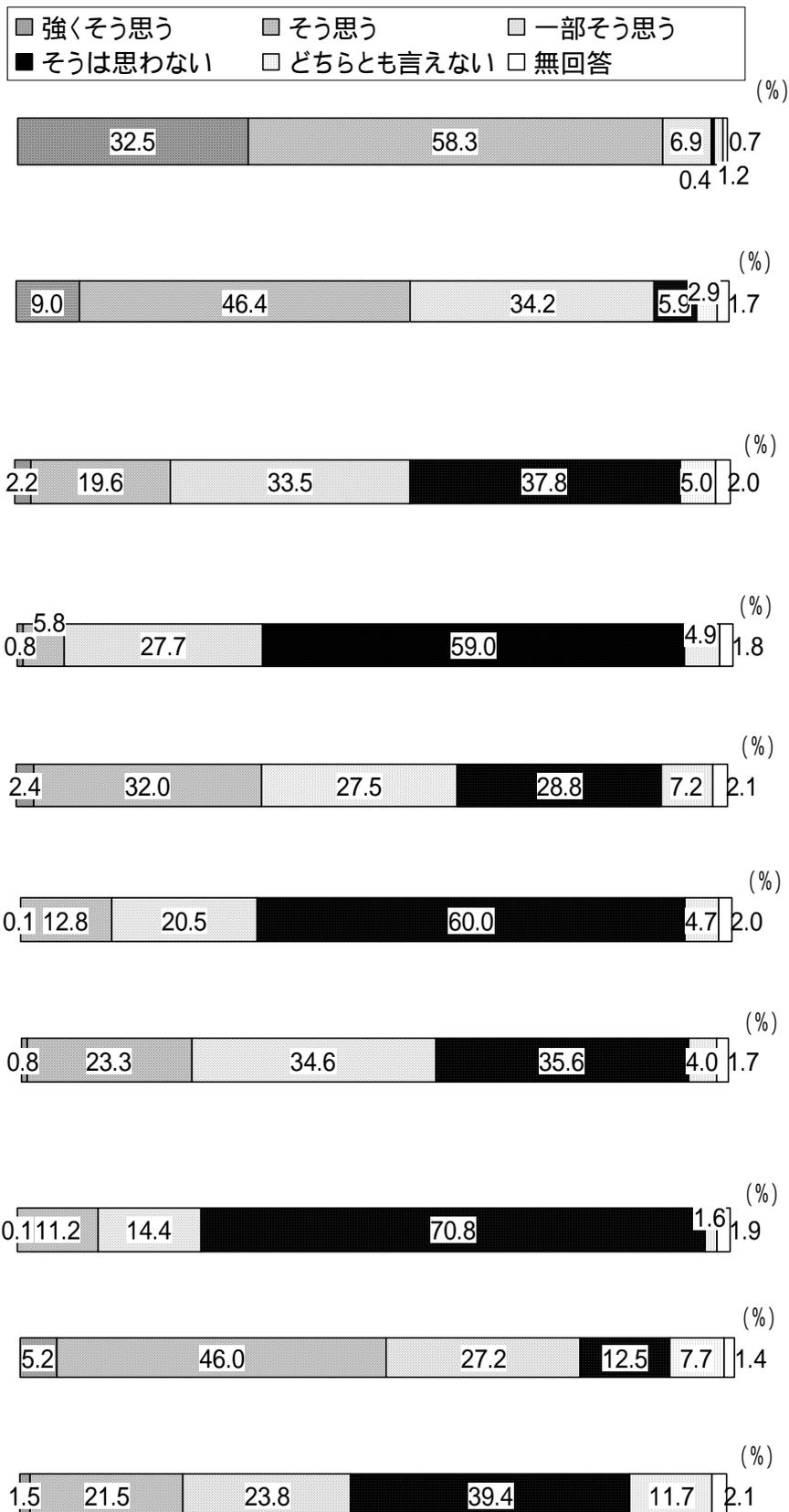


## D. 特に注力・実行している 不祥事防止策

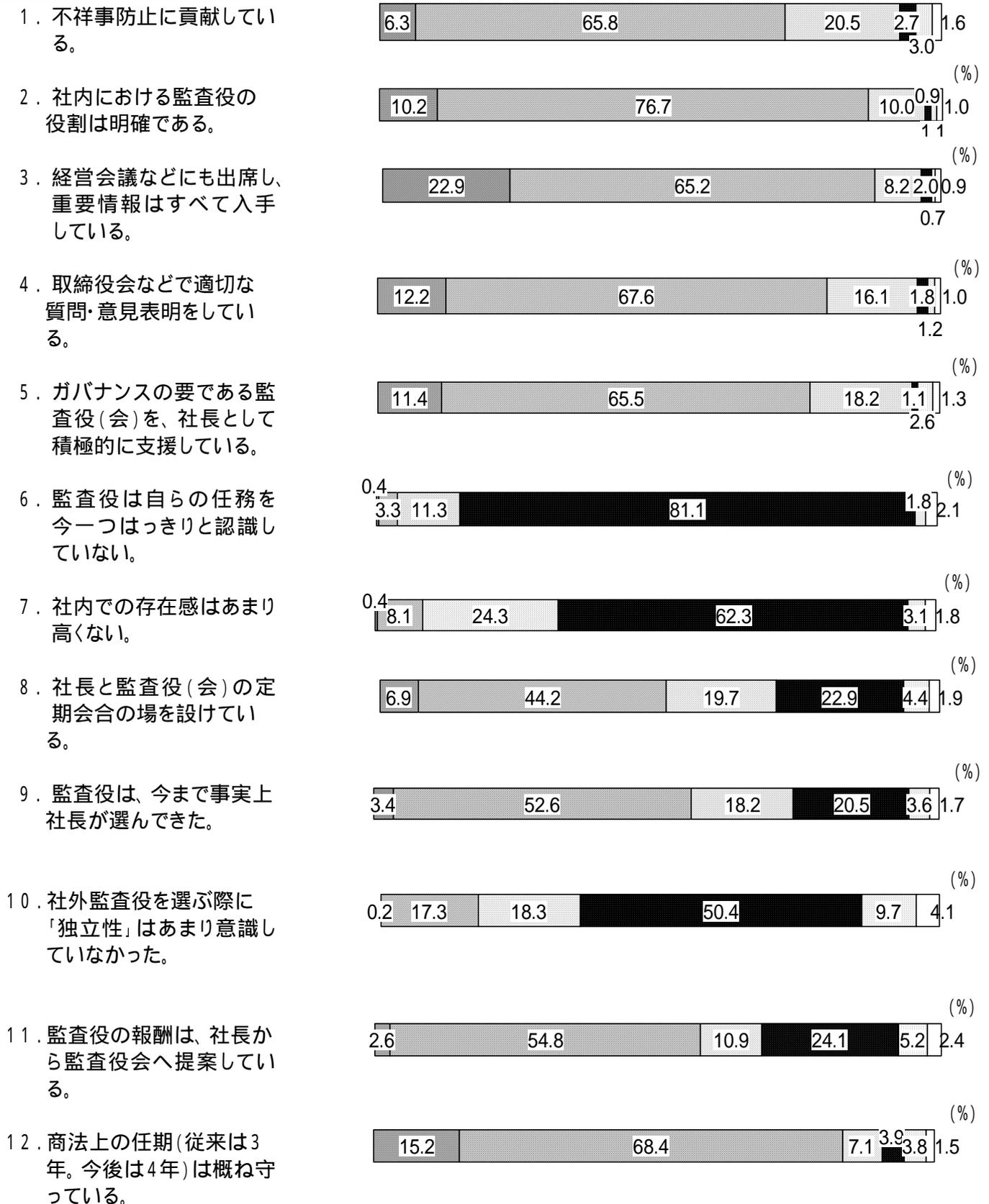
回答者は 1,686 中 633 人 (37.5%)。  
記述式回答のため、本文 26、27、46 頁を参照ください。

## E. 監査役(会)の役割

1. 監査役(会)は、経営及びトップの監視・牽制機関として企業に不可欠な独立機関だ。
2. トップ主導あるいは、組織ぐるみの不祥事を防止するのは、監査役(会)の責務だ。
3. 殆どが社内出身者で構成される取締役会には、トップの監督機能を期待しがたい。
4. 監査役も、事実上社長に選ばれておりトップの監視役は無理。
5. 監査役(会)は、経営陣の一部として取締役と協働すべきだ。
6. 監査役は議決権を持たないので、経営への影響力は低くなる。
7. 監査役スタッフが少ないこともあり、不祥事防止に果たせる役割は限定的である。
8. 監査役(会)の存在は、日常はあまり意識していない。
9. 外部の目を持つ社外監査役は、社外取締役相当の機能を期待できる。
10. 監査役会の半数以上を社外監査役にしても、機能強化は期待できない。

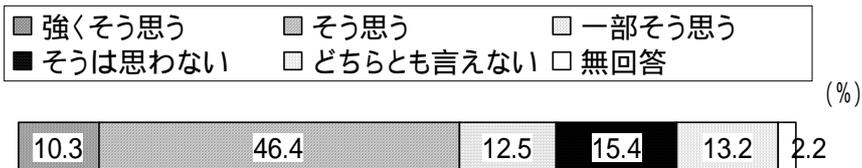


## F. 自社監査役(会)の状況



## G. ガバナンス体制

1. 社外取締役は少数でも導入していく。



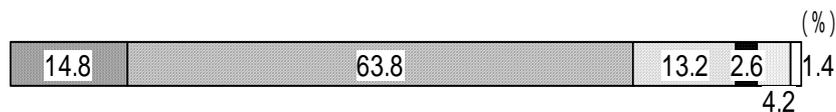
2. 日本の文化・企業風土では、社外取締役は機能しがたい。



3. 「委員会等設置会社」は、将来の目指すべき方向だ。



4. 仕組みよりも中味だ。既存の監査役制度を充実していくのが先決。



5. 報酬委員会のような社内機関は必要だ。



6. 指名委員会のような社内機関は必要だ。



## H. アンケート内容について、 後日面談をお願いできますか?

